2019もてぎチャンピオンカップレース第5戦［JAF公認No.2019-1024］

開催日：11月17日　開催場所：ツインリンクもてぎ　格式：準国内　主催：BSC［クラブ登録No.加盟13279］、MOSC［クラブ登録No.公認09001］、㈱モビリティランド［団体登録No.公認24001］

フォト／友田宏之、JAFスポーツ編集部　レポート／JAFスポーツ編集部

ル・ボーセモータースポーツチームの同門対決となったスーパーFJ最終戦は岩澤優吾選手が優勝し、シリーズチャンピオンを手にした。

S-FJは岩澤優吾選手が逆転Vでタイトル確定！

2019年のもてぎチャンピオンカップレースは11月17日、シリーズ最終戦となる第5戦が行われ、スーパーFJ、もてぎVITA、もてぎCIVICの3クラスでチャンピオンが決定した。

6台が出走したスーパーFJのシリーズチャンピオン争いは、岩澤優吾選手がチームメイトの伊東黎明選手を僅か1点差で従えて首位で最終戦に臨んできた。しかしポールポジションを奪ったのは伊東選手。岩澤選手は「NEWタイヤと朝の路温に走りを合わせ切れなかった」と、フロントローは確保したものの、0.415秒遅れての2位と予選では伊東選手に水を開けられる。3番手には岩澤選手に0.062秒、及ばなかった新倉涼介選手が続いた

この日、最初の決勝レースとして行われたスーパーFJの決勝。始めはスタートを決めたと思われた伊東選手だったが失速。その脇をすり抜けた岩澤選手と新倉選手が並んで1コーナーに飛び込む。一旦は新倉選手が首位に立ったが、岩澤選手が抜いてオープニングラップのリーダーに。伊東選手も3番手まで回復して戻ってくる。伊東選手は翌周に新倉選手をパスして2番手に上がると、3周めには岩澤選手の背後に迫り、テール・トゥ・ノーズに。4周目の90度コーナーで岩澤選手をパスして首位を奪還した。

しかし岩澤選手も譲らず、5周目からはサイド・バイ・サイドのバトルが随所で繰り広げられ、息を呑む好レースが展開される。迎えた7周目。この周、ファステストラップをマークした岩澤選手が伊東選手をかわして再び首位に浮上する。伊東選手は翌周、岩澤選手のファステストをさらに更新する走りで食らいつくが、順位は変わらず。伊東選手を振り切った岩澤選手が、3勝目をあげ、チャンピオンを獲得した。

「予選でコンマ4秒も遅れてしまったので決勝に向けて変えたセットがバッチリでした。ただ中盤まではきついだろうと、最初から分かっていたので、そこで耐えられたのが良かったと思います。実際、中盤からはタイヤも温まってマシンもいい感じになってきたので、そこからは自分のペースで走れば行けるなとは思ってました。でも正直、序盤はバトルに持ち込まれて抜かれて焦ってしまって、メンタル的にもきつかったんですけど、ちゃんと気持ちを持ち直して、後ろからプッシュしたら相手もミスしてくれたんで抜けたんです」と岩澤選手。所属するル・ボーセモータースポーツチームは今季限りでの活動終了を表明している。「ル・ボーセ最後のレースで、いいレースができて良かったです」と岩澤選手は最後に振り返った。

もてぎの名物クラスとなっている、もてぎシビックには13台がエントリー。そして今季も、この最終戦に、鈴鹿クラブマンのシビックマイスター、松下裕一選手がスポットで参戦してきた。予選で松下選手を抑えたのは、関直之

1. スーパーFJで2位入賞の伊東黎明選手。*2.* スーパーFJで3位に入った新倉涼介選手。*3.* スーパーFJ表彰台獲得の3選手。

4. 併催のTOYOTA GAZOO Racing Netz Cup Vitz RACE関東シリーズ最終戦ではヴィッツマイスターとして知られる峯幸弘選手がもてぎ戦初勝利を飾った。**5.** VITAは藤原大暉選手がポール・トゥ・フィニッシュで優勝。**6.** もてぎシビックは関直之選手が優勝した。**7.** Vitzで3位の長山等選手。**8.** もてぎシビック3位の臼井達哉選手。**9.** VITA3位入賞の相馬充寿選手。**10.** Vitz関東表彰台の3選手。**11.** VITA表彰台の3選手。**12.** もてぎシビック表彰台の3選手。**13.** Vitzで2位は松本英之選手。**14.** もてぎシビック2位の松下裕一選手。**15.** VITA2位入賞のイノウエケイイチ選手。

選手。0.5秒差に従えてポールポジションを獲得した。

決勝でも、この2台の速さは群を抜き、3周めからはスタートでトップを守った関選手と松下選手が激しいテール・トゥ・ノーズのバトルを見せる。一時は0.3秒差まで背後に迫った松下選手だったが、その差は徐々に広がり、関選手が10秒の大差をつけて逃げ切った。ここ、もてぎでは地元ながら松下選手に2連敗中だった関選手は、「ようやく勝てました。クルマは本当はもっと煮詰めたくて、決勝でもフラフラしたんだけど、何とか乗り切りました。でも今日は、レジェンドに勝てただけで満足です」と満面の笑みを浮かべていた。シビックと混走で行われたVITAは、「序盤は手こずりましたが、少しずつコーナーで差が開き始めてからは自分のペースで走れるようになりました」と振り返ったPP獲得の藤原大暉選手が今季2勝めを飾った。

2時間耐久として行われたミニJOY耐は31台がエントリーと、今回も盛況を見せた。レースは予選20番手スタートだったClass1のフィット・ハイブリッド車であるH05b（堀内康弘／山口晃平組）が終盤、総合首位に立ち、そのまま逃げ切るかと思われたがゴール目前にしてストップ。代って首位に浮上したDC5インテグラのMitaProject SPM（山口吉明／大谷安志組）が、優勝した前年と同じ48周を走り切って2連勝を果たした。

ミニJOY耐／16. 総合表彰の各選手。**17.** Class6・2位のNTCパルサー（天川琢雄／廣瀬利次組）。**18.** Class4・2位の日本自動車大学校LEVIN（田野原稜／鶴田敦史／常盤啓人組）。**19.** Class2・2位のセブリングスターレット（伊丹輝順／原口一義組）。**20.** Class5・2位のDFサガラ設備EK9（尾形哲也／相良学組）。**21.** Class3・2位のSPMアウトモーダFKヴィッツ（柴藤昌之／越智晃良／飯田泰組）。**22.** Fit1.5CC・2位のエニーハウスMS日光福田ソーラーGK5（岡本工／江原弘美組）。**23.** Class8優勝のチームさだとらS2000百（森下陽介／小林貞人組）。**24.** Class5優勝はノリノリシビック JALI（福田隼人／斎藤紀雄組）。**25.** Class3優勝のエンドレスアドバントラストVitz（川中子和彦／落合久敬組）。**26.** Class2優勝はクレバーK2スターレット（平塚由紀人／大西宏之組）。**27.** Fit1.5CC優勝はモンチッチ隈元建設TPFIT（吉岡一成／松尾充晃組）。**28.** Class4優勝のI LOVE S2000（西山雅敏／山本謙悟組）。**29.** 総合優勝を飾ったMitaProject SPM（山口吉明／大谷安志組）は過去4年で3度優勝している強豪だ。「義務付けのピットストップを早めにやる作戦に変えたことが結果的には良かった」（山口選手）。